

たのえづわ



第200号



年頭にあたり

宮司 吉田源彦

明けましておめでとうございます。平成三十年の輝かしい新年を崇敬者の皆様方と迎えられることを大変嬉しく存じます。

天皇陛下 皇后陛下におかせられましては、常に国民に大御心を思し召されて戴いておりますこと恐懼に堪えません。謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎたく存じます。

社報「北の志づめ」が昭和四十三年五月十日に「北海道百年記念号」として発刊してより、この度二百号を迎えることができました。崇敬者・関係者の皆様方のお陰であると御礼申し上げます。是を機に職員一同、より一層の奉務に邁進致す所存でございますので、これまで以上に当神宮への御崇敬と御協力を頂きますようお願い申し上げます。

さて、本年は蝦夷地が北海道と命名され、明治天皇の大御心のもとに本格的な開拓が始まってより一五〇年、境内社である開拓神社の創建八十年を迎えます。顧みますれば北門経営の国是が樹立せられ、幾多の先覚が至誠を傾け、万難を排し勤しまれた賜物が今日の北海道です。開道七十年を迎えた昭和十三年には、時の石黒英彦北海道長官(現・北海道知事)は物故開拓功労者を慰霊・顕彰するために開拓奉斎殿を建立し、同年八月十五日、開拓功労慰霊祭を執行しました。開拓神社の

祭典行事案内

御祭神でもある開拓判官島義勇が札幌の地に入った十二月三日に、開拓奉斎殿をもって開拓神社が創建されました。私どもは本道開拓者の創業辛酸を顕彰し、その御霊は道民崇敬の対象としての儀礼を享けるべく諸活動を行い、多くの皆様とかかる佳節をお祝いいたしたく存じております。皆様方には何卒、ご理解とご崇敬頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりますが、寒気が身に染みる日々が続きますが、御祭神の御加護の下、ご自愛頂きまして、輝かしい年をお過ごしください。よろしくお願いいたします。

毎月「二日」

月首祭並吟詠講誕生祭
一日参り(※一月・九月を除く)

「十日」

旬祭並敬神婦人会誕生祭

「十五日」

月次祭並むすび会誕生祭

「二十日」

旬祭並興風会献詠祭

◆ 一月

- 一日(月) 午前七時 歳旦祭
- 三日(水) 午前九時 元始祭
- 七日(日) 午前八時 昭和天皇祭遙拝
- 十四日(日) 午前十時 古神札幌納祭
(どんと焼き)
- 二十一日(日) 午前十一時 祈請祭
- 二十八日(日) 正午 第八回新成人寒中禊会

◆ 二月

- 三日(土) 午後三時 節分祭
- 十一日(日) 午前十時 紀元祭
- 十七日(土) 午前十時 建国記念の日奉祝
道民の集い
(於 ホテルロイトン札幌)
祈年祭

◆ 三月

- 二十一日(水) 午前九時 春季皇霊祭遙拝
- 二十五日(日) 午前十一時 入学祭

頓宮 札幌市中央区南一条東三丁目

毎月「二日」

午後六時
月首祭並二日講社誕生祭
(※二月は午前十時)

◆ 一月

- 一日(月) 午前十時 歳旦祭並 一日講社誕生祭

- 十四日(日) 午前十時 古神札幌納祭
(どんと焼き)

◆ 二月

- 三日(土) 午後五時 節分祭



北海道神宮社報「北の志づめ」発行二百号を祝して



副総理 財務大臣 金融担当大臣

麻生太郎

明けましておめでとうございます。
ます。

平成30年の元旦を皆様と共に
迎えることができましたことを
嬉しく思います。

年頭にあたり皇室の御繁栄と
我が国の平安を心より祈念致し
ております。

また、北海道神宮社報「北の志づめ（鎮め）」が発行200号を迎えられましたことに敬意とお祝いを申し上げます次第です。

さて、本年は北海道がその命名から150年を迎える佳節の年であります。更には北海道神宮境内に祀られている開拓神社の創建から80年の節目の年とも重なります。その長い年月のひと時ひと時に思いを巡らせれば、悲しみや喜び、また苦労や幸福など、様々な感情が沸いてくることでしょう。

幕末から明治にかけて本州や四国・九州から多くの人々が開拓のため北の大地に入植され今日

の北海道の発展に繋がりました。今では日本の食糧基地と呼ばれるほどの重要な役割を担っている一次産業に始まり、内外から多くの人々が訪れる人気エリアと化した観光産業など、その特性を活かした事業で注目を集めています。今後も「世界の中の北海道」という視点でなお一層の発展を遂げられますことを期待致しております。

最後に、道民の安寧を祈念し続け「北門の総鎮守」と称される北海道神宮のご隆昌を祈念しお祝いの言葉と致します。

札幌を開いた男

島義勇と大友亀太郎

島義勇判官は明治維新の翌年、すなわち明治二年、明治天皇からお預りした開拓三神の御霊代を奉じて、札幌に着く。いわば新政府の代表で、初代の札幌市長であるとともに、北海道神宮の初代宮司ともいえる。

大友亀太郎は、旧政府徳川幕府の役人として、島判官より十一年前函館に来た。二宮尊徳晩年の弟子で、報徳仕方をもって木古内や大野の開拓を成功させ、さらに幕命により慶応二年から石狩の開拓に当たった。

農業経営には水の確保が最大の課題だ。農業用水・生活用水・物資輸送という三つの役目を果たす運河の開削に着手。豊平川水系の湧水を水源とした大友堀は、現在の南三条東一丁目から北へ。北六条東一丁目から北東に曲がり、北十三条東十六丁目まで伏古川に接続した。伏古川は石狩川に連なるので、開拓のための資材等は、日本海から



北海道神宮境内の島判官銅像

ら石狩川を遡り伏古川、そして大友堀に入った。後から来た島判官の都市づくりにも大いに活用される。現在の中央郵便局付近が資材置場。明治七年、大友堀はさらに延長、創成川と呼ばれる。

島・大友の二人を、札幌の基礎を創った男といつてよい。札幌の条・丁目が象徴的にそれをあらわしている。

条は、大通公園を基準とし、南北に数が増えていく。この大通りは島判官が構想して、札幌の都市計画の基本となった。

丁目は、創成川を基準とし、東西に数が増えていく。創成川は大友亀太郎が開削したもの。だから二人は、札幌を南北・東西に分ける基準線をこしらえた人物といわけである。

二

島判官の銅像は札幌に二基あり、一つは札幌市役所の一階ロビー、もう一つは神宮の御神門の左手にある。前者(山内壮夫作)は昭和四十六年、後者(宮地寅雄作)は昭和四十九年の建立である。

神宮境内に島判官たちをお祀りした開拓神社、円山公園には島義勇紀功碑があるのもご承知のとおりだ。さらに札幌市民の最大の花見の場所、円山の桜は、のち佐賀の役で非業の死をとげた島判官を追慕する福玉仙吉が、上手稲の山桜百五十株を献植したのが発祥で、その献桜碑や、由来を記した銘板も境内にある。

大友の銅像(松田与一作・昭和六十一年)は、創成川北一条橋のたもとにある。また、大友が住んで開拓の指揮をとった役所跡



開拓判官島義勇の役宅(明治4年)

明治二年12月3日、銭函の仮役所から島判官は札幌に入る。この役宅は大友亀太郎の役宅を移設したものとされている。現在の北2条西1丁目辺り。

が、北十四条東十六丁目、札幌村郷土記念館である。その近く本龍寺妙見堂に、島判官と大友亀太郎のつながりを示す逸話が残されている。

島判官が札幌の都市づくりに当たった明治二年は、東北の凶作で人夫の食糧確保が最大の難事だった。わずか三か月の間に一年分の予算の大半を使ってしまう。このため一般に、島は資金を放漫に費い果たし、クビになったといわれているが、決してそんな大ざっぱな人ではない。赴任前、太政官に伺いを立て、大きな問題は東久世長官にお届けして許可を受けるが、細かなことは判官の専決で行うことの許しを得てあった。

ところが現地の実態を知らぬ函館の長

官は、島の独断専行酷使浪費と見え、中央政府に島を辞めさせるか、自分を辞めさせるかと迫ったのであった。その結果、翌三年二月、島は免職、東京召還となる。

島判官の窮状を見た大友は、自分たちが備蓄していた食糧を放出して、これを助ける。判官は感謝のしるしとして、自分の大切な妙見大菩薩の持仏を大友に贈り、大友はそれを村の守り本尊としてお祀りした。この新旧両政府の代表ともいふべき二人の、友情のあかしが今も存する本龍寺妙見堂なのである。

札幌農業の祖大友亀太郎、報徳仕法の実践者も、島離任の四か月後、北海道を去っていく。

三

島義勇判官は文政五年(一八二二)佐賀に出生。大友亀太郎は二宮尊徳と同じ相模小田原に天保五年(一八三四)の出生。ともに奇しくも午年生まれ、島が一回り上である。

佐賀藩出身の島が、なぜ北海道の開拓・本府建設に当たったか。藩主鍋島直正が、かねてから北方問題に目を向け、北海道の開発は新日本の急務と考えており、その主命を受け、島は早く安政四年に北海道を視察、当時としては松浦武四郎に次ぐほど、北方問題の先駆者・専門家だったからである。

新政府は北海道開拓使長官に鍋島直正を任命、首席判官に島を起用したが、直正病気のため辞職、二代長官に公卿の東久世通禧が就任する。これが島の後半生の悲運の遠因となる人事だった。東久世は島を罷免したが、その後札幌に来て見て、島の構

想の雄大さに感嘆する。島判官との金銭感覚の大きな差が悲劇を生んだ。島は佐賀藩海軍奉行時代には、独断で八万両の軍艦を購入できた人物だった。

島の都市計画は、スケールが大きく、馬車しかない時代に幅百米近い道路を作って南北を分かち、北側に道庁やその他の官庁・学校・病院。南側は商業の街とするものだった。他の道路も幅二十米。市街全体は東は豊平川から西は円山の麓にいたり、円山には大社を造営、その参道(現在の北一条)は三十間道路(約五十米余)と計画した。また銭函から発寒あたりまで運河を通じ、札幌へ直接船を乗り入れ、人や物を運ぶ考えもあり、これは百年後に石狩湾新港として実現する。

四

東京に戻った島は大学少監という職に就く。今でいえば東大総長・文部次官・厚生次官を兼ねたようなもの。明治四年には山岡鉄舟や村田新八らとともに天皇の侍従。次は秋田県の初代知事となる。八郎潟の干拓と日本海沿岸随一の港を計画。病院や洋学校、鉱山開発の外国人を雇い入れたり、島はよく頑迷な保守派のようにいわれるが、実は非常に開明派で進歩的な考えの人だった。(八郎潟の干拓も百年後に実現、今の大潟村)

明治六年、いわゆる征韓論の政変があり、西郷とともに参議を辞職、故郷に帰った江藤新平をかっつき、旧佐賀藩士族が不穏な状態となる。島は太政大臣三条実美に頼まれて、それを鎮めに行くのだが、あまりにも非

道な新政府のやり方に、若い者を抑えきれず、ちよと明治十年の西郷と同じように、江藤の征韓党と、島の憂国党が反政府の兵を挙げ、敗れたのが佐賀の役である。大久保利通が政敵江藤を葬ろうと企んだ挑発に、乗ってしまったと言われている。

島・江藤は佐賀の臨時裁判所で、たった二日間の裁判。死刑という悲劇的な結末を迎える。事の成り行きを非常に心配された天皇からの助命の勅使も間に合わなかった。島五十三歳。

島は明治二十二年、賊名が除かれ大赦。大正五年には、維新や北海道開拓に功労のあった人として、従四位を追贈された。

島判官の残した和歌・漢詩はたくさんある。特に札幌・北海道を詠んだ「北海道紀行」という漢詩集は、神宮の社宝となっている。その中で最も代表的な詩を一つご紹介しよう。

〔札幌開拓の詩〕

河水遠く流れて山隅に峙つ

平原千里地は膏腴(こうゆ)

四通八達宜しく府を開くべし

他日五洲第一の都

大意は、大河が遠くを流れ、一方の隅に山。見渡せば千里のかなたまで肥沃な平野。道内いずこにも道を通ずる中心の地。いつの日かここは、世界第一の都となるであらう。

札幌の基礎づくりに献身した二人、島義勇の桜、大友亀太郎の柳、あらためて先人を想起して頂きたい。

(上田三三生氏「北の志づめ」第二二五号、第一二六号より撰録)

社頭風景

9月中旬
十一月

神嘗奉祝祭並びに 年番引継祭

伊勢の神宮では年間を通じて一三〇〇余のお祭りが行われます。そのなかでも、十月十七日に行われる神嘗祭は、最も重儀として古来より厳修されてきました。神嘗祭はその年の新穀を天照大御神にお供えするお祭りですが、古くは二十年ごとの神嘗祭にあたって、御遷宮が行われてきました。最も清らかななかで祭儀が執り行わ



年番講長旗授与



年番引継

れて神威の発揚が祈られてきました。南北朝の頃より神嘗祭と遷宮祭は別に行われるようになり、今日に至っています。

神嘗祭は、神(至尊)の新嘗祭という意味があり、全国の神社では、本宗と仰ぐ神宮で神嘗祭が行われることを奉祝して神嘗奉祝祭が斎行されます。

北海道神宮では、同日午前十時より百五十名の参列のもとに厳肅に斎行しました。祭典の中で、第四豊水祭典区中村憲由樹講長より敬神講社旗が返還され、次年度新年番第六西創成祭典区松野哲也講長に敬神講社旗が吉田宮司より授与されました。

祭典終了後、本殿にて前年番への感

謝状と記念品の贈呈に引き続き、新年番の講長・副講長への委嘱状が手渡されました。この後、参集殿にて新旧年番による引継式が行われました。これにより平成三十年度の札幌まつりが本格的に始動することになります。

新年番

講長・副講長ご紹介

平成三十年度は、第六西創成祭典区が敬神講社年番となり、例祭の渡御奉仕を頂きます。第六西創成祭典区の代表委員長及び代表委員は次の通りです。(敬称略)

第六西創成祭典区代表委員長
敬神講社

講長 **松野哲也**



第六西創成祭典区代表委員
敬神講社

副講長 **阿部博昭**



第六西創成祭典区代表委員
敬神講社

副講長 **斎藤宏二**



第六西創成祭典区代表委員
敬神講社

副講長 **佐藤源五郎**



明治祭

十一月三日(金・祝)午前十時より明治天皇の大業を景仰すべく明治祭を厳粛に執行しました。

明治天皇には、明治十四年の北海道御巡幸の折、開拓使麦酒醸造所(現・サッポロビール(株))で麦酒を聞こし召されたこと伝えられており、明治天皇百年に当たる、平成二十四年の明治祭より神饌としてお供えされた、「開拓使麦酒」を恒例により神前にお供えしました。

宮司以下祭員、被戸で祓いを受けた後、本殿へ参進、大前に神饌が供せられ、宮司畏みて祝詞を奏上しました。

次に、平成二十四年に明治天皇百年を記念して作舞された「黎



神職参進



黎北の祈り

北の祈り」を奏し、一同で「明治節」を唱和し、宮司以下参列者が玉串拝礼を行い、明治天皇への欽慕の至情を深めました。

祭典終了後は参集殿にて、直会が行われ、意義深い菊香る佳節を言祝ぎました。

第四十三回北海道神宮少年剣道大会

九月二十三日(土・祝)秋分の日、北海道神宮少年剣道大会が行われました。結果は次の通りです。

3位	準優勝	優勝	出場数	
札幌前田少年剣道会 札幌龍心剣道少年団	真駒内少年剣道会	札幌西岡南剣道部会	67チーム	小学生団体
野崎 董 少年剣道部	越後 莉央 若草スポーツ少年剣道部	宮内 涼来 札幌正堂館	81名	小学生個人
真駒内少年剣道会	栄南少年剣道クラブ	宮原 モモ 札幌北区あいの里剣道会	47チーム	中学生団体
本田 真穂 札幌剣心会	福島 瑞貴 若草スポーツ少年剣道部	吉田 早葉生 札幌正堂館	54名	中学生個人



剣道大会会場

新嘗祭・ 新穀勤労感謝祭

十一月二十三日(木・祝)午前十時より、悠遠の神代より瑞穂の国の重き儀式として行われてきた新嘗祭並新穀勤労感謝祭を肅行しました。

祭典は三百名の参列の中、海の幸・山の幸を捧げ、新穀勤労感謝祭実行委員会を始め、農業・商工業・漁業・林業・酒造業の各団体代表者が幣帛を献じました。

祝詞奏上の後、北海道農業協同組合中央会会長飛田稔章氏が豊作感謝の祭



海の幸・山の幸を供する



飛田稔章会長祭詞奏上

詞を奏上しました。殿内は北海道神宮神饌田にて収穫された「ゆめぴりか」十俵を始め多くの方々より品々が奉納され、奉賛の真心で埋め尽くされました。JAさつぽろ・北海道神宮俊祇講によつて奉納された、野菜各種の船盛は「豊作丸」「繁栄丸」と名付けられ、多くの参拝者の目を引き付けていました。

祭典終了後は参集殿にて直会が行われ、北海道庁農政部長小野塚修二氏他挨拶があり、懇親を深めて終了しました。

新穀勤労感謝祭 即売会

午前七時より北海道神宮西駐車場に於いて、新穀勤労感謝祭実行委員会主催により、第三十六回即売会が行われました。当日は寒気が強い日でしたが、早朝より大勢の方で賑わいました。全国的なブランドになりつつあります北海道産の新米、北海道で収穫されたばかりの各種野菜など豊富な品揃えと新鮮さが相まって大変な人気を博しました。



即売会会場

第四十七回 写生大会表彰式

八月二十七日(日)に写生大会が行われ、二百五点の応募作品があり厳正なる審査の結果、その中より入賞作品が決定されました。

十月九日(月・祝)午後二時より北海道神宮参集殿で入賞作品の表彰式が行われました。応募作品は、十月二日(日)より十一月三日(金・祝)まで東回廊で展示しました。

神社本庁統理賞



札幌市立 栄南中学校(2年) 星 奈桜

北海道神宮宮司賞



札幌市立 新琴似北小学校(6年) 松尾 夏希

北海道神宮宮司賞



札幌市立 円山小学校(2年) 小林 空雅

受賞者の方々をご紹介します。(敬称略)

〈神社本庁統理賞〉 1点

札幌市立 栄南中学校 二年 星 奈桜

〈北海道神宮宮司賞〉 2点

札幌市立 新琴似北小学校 六年 松尾 夏希
札幌市立 円山小学校 二年 小林 空雅

〈北海道新聞社賞〉 2点

札幌市立 宮の森小学校 四年 金子 美穂
札幌市立 第一幼稚園 三歳 陽実

〈ぺんてる賞〉 3点

札幌市立 西岡北小学校 一年 山田 結歩
札幌市立 あやめ野小学校 三年 羽川 莉緒
札幌市立 向陵中学校 三年 國竹 花

〈金賞〉 8点

札幌市立 西岡北中学校 二年 佐藤 杏桃
札幌市立 西岡北小学校 六年 宮脇 舞里
札幌市立 青葉小学校 五年 君島 朱里
札幌市立 稲宮小学校 四年 池田 奈穂
札幌市立 幌南小学校 二年 宮崎 燈子
札幌市立 上野幌西小学校 一年 正嶋 嘉子
札幌市立 三角山小学校 五年 若葉 会稚園

〈銀賞〉 8点

札幌市立 宮の森中学校 二年 真央 里央
札幌市立 幌北小学校 三年 愛月 希月
札幌市立 幌通小学校 四年 夏美 花
札幌市立 桑園小学校 一年 羽希 南
札幌市立 常盤小学校 六歳 花田 峻樹
札幌市立 第一幼稚園 二歳 原 希南

〈銅賞〉 16点

札幌市立 西岡北中学校 三年 近藤 雪乃
札幌市立 西岡北中学校 二年 岩黒 陸
札幌市立 宮の森中学校 二年 森田 芽香
札幌市立 あやめ野小学校 六年 羽川 遥香

〈入選〉 40点

札幌市立 北野小学校 四年 三浦 諒
札幌市立 大谷小学校 五年 佐藤 花
札幌市立 山手小学校 二年 本木 天景
札幌市立 山手小学校 三年 遠藤 将成
札幌市立 山手小学校 四年 鈴木 優衣
札幌市立 山手小学校 五年 小川 心衣
札幌市立 山手小学校 六年 小川 楓
札幌市立 山手小学校 七年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十一年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十二年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十三年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十四年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十五年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十六年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十七年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十八年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十九年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十年 小川 菜香

札幌市立 北野小学校 四年 三浦 諒
札幌市立 大谷小学校 五年 佐藤 花
札幌市立 山手小学校 二年 本木 天景
札幌市立 山手小学校 三年 遠藤 将成
札幌市立 山手小学校 四年 鈴木 優衣
札幌市立 山手小学校 五年 小川 心衣
札幌市立 山手小学校 六年 小川 楓
札幌市立 山手小学校 七年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十一年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十二年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十三年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十四年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十五年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十六年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十七年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十八年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 十九年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十一年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十二年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十三年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十四年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十五年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十六年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十七年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十八年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 二十九年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十年 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 三十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 四十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 五十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 六十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 七十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 八十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十一歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十二歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十三歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十四歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十五歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十六歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十七歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十八歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 九十九歳 小川 菜香
札幌市立 山手小学校 一百歳 小川 菜香

第五十九回献菓祭

十月六日(金)午前十二時より献菓祭が北海道神宮銘菓奉献会会長田中英雄氏を始め十六名の会員が参列のもと齋行されました。御神前には全道各地の会員より銘菓が奉献され、神門内ではガールスカウト北海道第八団と札幌第二団カブスカウト隊、また日本茶インストラクターリーダー本林富美子氏による呈茶、香老舗松榮堂によるお香の葉作成体験の奉仕と、株式会社美好屋、「北海道焼チーズ」推進協議会による販売会も行われました。



奉納された銘菓

第五十九回北海道神宮銘菓奉献会「献菓祭」に奉納頂きました皆様方をご紹介致します。数々のご奉納ありがとうございました。(敬称略・順不同)

《所在》

《奉献菓名》

《会社名》

《代表者名》

札幌市	白い恋人	石屋製菓(株)	石水 創
札幌市	野菜ようかん	(株)一久もち処 一久大福堂	久木 利弘
稚内市	稚内流水まんじゅう	(南)御菓子司小鹿	小鹿 卓司
登別市	カステラ	(南)菓子司かわむら	河村 誠
北見市	ほつちやれ	(株)菓子処大丸	中村 寿志
札幌市	さつぱろの華	菓子処みつや	田中 英雄
札幌市	さつぱろの華	北島製パン(株)	北島 孝雄
木古内町	箱館塩かすてら	(株)きのとや	長沼 昭夫
札幌市	札幌農学校	(株)クランベリー	水戸部 公平
帯広市	しゃんるくクッキー	ケーキショップ あかね	大窪 和己
札幌市	さつぱろイコロ	(株)五勝手屋本舗	小笠原 隆
江差町	五勝手屋羊かん	(株)三ハ	小林 孝三
札幌市	札幌時計台	三葉製菓(株)	水上 崇
旭川市	「春ゆたか」かりんとう	(株)シヤルロット	吉本 晋治
札幌市	かぼちヤクッキー(大浜みやこ)	(株)白松がモナカ本舗	白松 一郎
札幌市	白松がモナカ	(南)未廣庵	白田 光伸
木古内町	木古内の坊孝行羊羹	(株)清月	渡辺 主人
北見市	ずつしいモナスク	竹屋製菓(株)	鈴木 培弘
帯広市	そばやき	高砂屋菓子舗	渡邊 孝博
紋別町	ハマナスパウンドケーキ	池田食品(株)	池田 光司
札幌市	めんこいおやつ	タケタ製菓(株)	武田 晃和
札幌市	えぞ厚焼	中ノ目製菓(株)	中ノ目 孝道
小樽市	北海道白花甘納豆	(株)柳月	村本 昇
帯広市	三方六の小割	(株)壺屋絵本店	村本 定範
旭川市	き花	中栄菓子舗	中澤 利彦
せたな町	親子熊羊羹	(株)新倉屋	村本 吉晴
小樽市	石倉くるみ餅	(南)日貝ベーカリー	新倉 充宏
北見市	バター金時、豆パン	(株)はこだて柳屋	若杉 敏臣
函館市	ロマネスク函館	(南)ろまん亭	新居 浩
札幌市	藻岩山麓ものがたり	(株)富留屋	古谷 公億
札幌市	バターゼンペイ	(株)ホリ	堀 昭
室蘭市	夕張メロンピュアゼリー、とうきびチョコ、パウムクレーヘン、	(株)まるぶん	川西 文男
砂川市	開拓おかし、はまなすの恋	(株)美好屋	竹林 和俊
札幌市	手焼きどら焼き	(南)八木菓子舗	八木 一洋
札幌市	鏡餅	(南)欧風菓子モン・ジェリ	守屋 博光
新ひだか町	元祖三石羊羹詰合	(南)菓子処久保	久保 武士
札幌市	焼きドーナツ	(南)くら屋菓子舗	倉山 勝美
伊達市	伊達かぶとまんじゅう	(株)五島軒	若山 直
八雲町	五島の慶び	(南)ルモンド	松村 泰年
函館市	五島軒ブーケ9種詰め合わせ	(株)六花亭	和田 滋
留萌市	みつばちリング		若狭 洋市
札幌市	ひとつ鍋		
洞爺湖町	わかさいも		

職場体験学習

札幌市内の女子中学生が、北海道神宮に於いて、職場体験学習を行いました。生徒達は授与所を中心に勤務しましたが、最初は緊張した様子でしたが、次第に慣れ笑顔で参拝者を迎えることができました。生徒達は新鮮な心持ちで職場体験を行いました。

札幌市立宮の森中学校



10月19日(木)・20日(金)

札幌市立中島中学校



11月15日(水)・16日(木)

札幌市立山鼻中学校



10月19日(木)・20日(金)

札幌市立向陵中学校



11月21日(火)・22日(水)

札幌市立啓明中学校



11月16日(木)・17日(金)

献香式

十月十三日(金)午後一時三十分より志野流献香式が蜂谷宋玄宗匠のお手前により行われました。



レバンガ北海道参拝

九月二十日(水)
(株)北海道バスケットボールクラブレバンガ北海道が代表取締役折茂武彦氏始め選手・チームスタッフが必勝祈願を行いました。



雪印メグミルクスキー部参拝

十月十二日(水)雪印メグミルク(株)スキー部が常務執行役員スキー部長池浦靖夫氏を始め原田雅彦監督・伊東大貴主将を伴い必勝祈願を行いました。



例 祭



9月の第三週の土日は、頓宮の宵宮祭、例祭が行われます。本年は、中央小学校の鼓隊の演奏を始め、地域の方々の奉納演芸が神楽殿で行われ、大勢の方が御参拝されました。又、例祭日には子供神輿も各町内をまわり、子供たちの元気一杯の声がビルに木霊していました。

盆踊り



8月13日から15日の三日間、頓宮境内にて盆踊りが開催されました。毎日、町内の方々が大勢参加され、境内を賑わせていました。

子供ラジオ体操



7月26日から8月20日までの小学校の夏休み期間、頓宮境内でラジオ体操が行われました。毎日100名近くの子供、父母の方が参加し、気持ちいい汗を流していました。

神話劇



8月10日、境内にて文月会(札幌市内の青年神職)に依る神話劇が、神楽殿で行われました。神話の「あまのいわと」を子供向けに楽しく劇にしたもので、大勢の子供たちが見入っていました。

奉賛会だより



年頭の辞

北海道神宮奉賛会 会長 岩田 圭剛

新年あけましておめでとうございます。

平成三十年の光輝に満ちた新春を迎えるに当たり、謹んで北海道神宮のご隆昌と奉賛会会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

北海道神宮社報「北の志づめ」第二百零二号が発刊されましたことは慶賀に堪えません。偏に北海道神宮皆様の御祭神顕彰への熱意と、会員皆様方の崇敬心がここまで歴史を刻むことができたことと存じます。皆様には引き続き北海道神宮へのご崇敬を頂きますようお願い申し上げます。

平成二十九年度の奉賛会事業と致しましては十月二十九日に第三十回境内清掃奉仕は五十三名様のご奉仕にて行われました。

本年はいよいよ北海道百五十年・開拓神社創建八十年を迎え、来年には北海道神宮御鎮座百五十年・札幌まつり渡御百四十回目を迎えます。顧みすれば明治二十年、明治天皇の詔を奉戴し、北海道開拓の任に当たった数多の先人のお陰で、今日の北海道の繁栄を築きました。当会と致しまして、感謝を込めて偉業を成し遂げた先人達を顕彰し、その「志」を次世代へ継承すべく諸活動を行って参りたく存じますので、より一層のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員皆様方には御祭神の御加護の下、実りの多い飛躍の年となりますよう、心から祈念致しまして年頭の辞とさせていただきます。

新入会員・協賛者のご紹介

当会のご入会・協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。平成二十九年九月一日から十二月二十日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(順不同・敬称略)

新入会員のご紹介

- 船谷修 ● 齋藤彰大 ● 秋元春生 ● 横井大豊
- 株式会社シティブランニング代表取締役生方 淳
- 塩垣邦久 ● 北岡つよい ● 松村将之
- 宮腰喬 ● 井上義則 ● 大野 徹 ● 佳奈
- 山坂住設サービス 山坂 修務 ● 瀧本 香壽子
- 田村 信生 ● 前田 憲太郎 ● 八田 志津江

協賛者のご紹介

- ◇ 五千元 那須 勝
- ◇ 千円 (有)北都エステート代表取締役山田 良治
- 安川 哲夫

第三十回 境内清掃奉仕

北海道神宮奉賛会の恒例行事であります、境内の清掃奉仕が十月二十九日(日)に行われ五十三名の皆様の参加を頂き行われました。

大祓のご案内

北海道神宮において、毎年六月三十日と十二月三十一日に行われる大祓のご案内を個人会員の皆様にお送りすることになりましたので、ここにお知らせ致します。

奉賛会会員神酒拝戴について

初詣の際、一月七日まで神門内に御神酒所を開設しておりますので、三十九年度会員証を提示して御神酒を拝戴してください。

尚、お車でお越しの方は、遠慮下さい。

特集

がんばれ！
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④1

最後の箱館奉行

杉浦誠

今年、「北海道百五十年」を迎えます。明治二年、新たに天皇による政治が始まり、蝦夷地が「北海道」に改められて二世



杉浦誠

紀半に及んだのです。幕府最後の箱館奉行を務めたのが杉浦誠という人で、幕府の政治を新政府に引継ぐのに大変な苦勞をしました。

杉浦は久須美家に生まれ、幕臣の杉浦家を継ぎました。剣術にも学問にも優れ、梅潭の号を持つ詩人でもありました。三十七歳で目付になり、新番頭格を経て開成所頭取を務めます。外国船の出没が相次ぎ攘夷論が高まる中、外国に対応する觀察の仕事につきますが、慶応二年（一八六〇）一月、四十一歳で箱館奉行に発令されました。

三月末、杉浦は近習や足軽など百人を超える家来を連れて江戸を出立しましたが、途中、津軽に入ると、沿道の世話役に宛てて「宿舎では一汁一菜のほかはお出しなさい。また土地の産物などいささかでも差し出してはならない」と触れを出しました。沿道の町役人らは接待などで苦勞をしてきたので、杉浦の清廉さに驚いたと言います。

幕府による長州藩征伐の最中に將軍家茂が死去するなど、国内は騒然とした空気に包まれました。不逞の輩が蝦夷地に渡つてくるとの噂が広まり、箱館の人々はおのきましました。杉浦は箱館に町兵を置き、弁天台場に鉄砲組を配備するなどして動揺を抑えました。米の移入が途絶えがちになったので、「粥にして食い延ばすよう」と通達するなど、細かい配慮をしました。

翌年秋、杉浦は勘定奉行の兼務を命じられ、職務はより重くなります。ところがほどなく將軍慶喜は大政を奉還し、王政復古の断行により、幕府は崩壊します。年が明けて慶応四年早々、来航した外国船から鳥羽・伏見の戦いが伝えられ、杉浦は江戸に使者を送り、今後の指示を仰ぐ。一方、狼藉者が現れた場合、奉行は死力を尽くして町人を保護するので心配するな」として次の方針を伝えました。

賊船が襲来したり、近在の諸藩士が暴動を起したりしたら直ちに戦う。朝命を受けた軍艦が来ても、幕府の命で治めている以上、江戸の指図があるまで待つよう談判する。それでも聞き入れないなら、戦つて死ぬ覚悟である。

間もなく江戸表から「朝廷方に穩便に引き渡すよう」との指示が届いたので、三月十五日、再び触れを出し、「奉行は旧幕府の命によりここに入るが、朝命があり次第、引き揚げる。町民は安心して家業に務めるように」と伝えました。

そんな折り、オタルナイと呼ばれていた小樽、高島の両郡で暴動が起こったのです。オタルナイ役所から通報を受けた石狩役所の役人が急行し、首謀者四人を捕縛し、騒ぎは収まりました。報告を受けた杉浦は犯人を箱館に護送させ、町中引回しの上、首をはね、晒首にしました。緊迫する情勢の中の厳しい処断だけに、人々は杉浦の厳然とした態度に恐れをなしたと言います。

この年の閏四月二十六日、新政府の箱館府知事として着任した清水公考は、五稜郭に入り、杉浦から「箱館地方及蝦夷地引渡演説書」を受け取りました。そこには金銭、穀物のほか、官有施設が詳細に記載されていたほか、世情が揺れ動く中、町民への救済米まで用意されていました。こうして何事もなく蝦夷地の政權交替がなされたのです。

杉浦はその後、新政府に採用され、静岡藩の公儀人などを務め、開拓使が設置されると開拓権判官に起用され、箱館出張所に勤務しました。しかし東京にいて采配を振るう開拓長官黒田清隆の姿勢と薩摩閥の存在に嫌気を感じて明治十年退職。東京に引き揚げ、晩年は勝海舟ら旧幕臣らと語り合うことが多かったと言います。

筆まめだった

杉浦は多くの書物や詩歌を残しましたが、著者が驚いたのは道立文書館に現存する在職中の膨大な日記類で、生真面目な性格がその文字からも伺えます。



杉浦が奉行として勤務した箱館奉行所

◆ プロフィール ◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。「定山坊行方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場！北の歴史を彩る』『大君の刀』など。



えと鈴(戌)

北の志づめ 第200号

平成30年1月1日発行

〒064-8505

札幌市中央区宮ヶ丘474

電話 011-611-0261

FAX 011-611-0264

表紙写真：富井純朗氏

北海道神宮社務所